

令和五年度採用

群馬県公立高等学校教員選考試験問題

国語

受験番号	
氏名	

- 一 「開始」の指示があるまでは、問題用紙を開かないでください。
- 二 問題は、1ページから4ページまであります。「開始」の指示後、すぐに確認してください。
- 三 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
- 四 「終了」の指示があったら、直ちに筆記具を置き、問題用紙と番号順に重ねた解答用紙を机の上に置いてください。
- 五 退席の指示があるまで、その場でお待ちください。
- 六 この問題用紙は、持ち帰ってください。

一 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

(森田真生『僕たちはどう生きるか 言葉と思考のエコロジカルな転回』による)

(注) ハイパーオブジェクト…：パンデミックや気候変動等、時間的、空間的に、人間のスケールを凌駕した超絶的な対象のこと。

著者…：独自の環境哲学を展開するティモシー・モートンと人類学者で作家のドミニク・ポイヤーのこと。

本書…：モートンとポイヤーとの共著『hyposubjects』の日本語。

問一 傍線部①～⑩について、カタカナを漢字に改めよ。

問二 傍線部Ⅰについて、この二つの「対置される概念」を分かりやすく説明した板書例を書け。

問三 傍線部Ⅱに関連して、「子どもたち」の例を挙げることで、筆者はどのような効果をねらったと考えられるか、書け。

問四 空欄□に当てはまる語として最も適切なものを次から選び、記号で答えよ。

ア ハイポサブジェクト    イ ハイパーサブジェクト    ウ ハイポオブジェクト

エ ハイパーオブジェクト

問五 傍線部Ⅲ「モノがモノであるとは、遊戯的であるということなのだと思う。だから、そのように生きるこのの方が「精緻 (accurate)」「なのだ」とはどういうことか、書け。

問六 傍線部Ⅳについて、現代人が「植物に学ばなければならぬ」のはなぜか、本文全体を踏まえ「ハイパーオブジェクト」という言葉を用いて、書け。

問七 「高等学校学習指導要領」(平成30年3月告示)の国語に示された科目「論理国語」において、「読むこと」を指導する際の教材として本文を活用する場合、どのような指導事項を指導することができるか、又、その指導をする際、ICTを活用したどのような言語活動が考えられるか、「論理国語」2 内容を踏まえて、書け。

二次の文章は、筆者である阿仏尼が、所領紛争の解決のために、京都から鎌倉に出発する場面のものである。これを読み、後の問いに答えなさい。

『十六夜日記』による

(注)

三冬：十月。侍従：息子の為相(ためすけ)。十七歳。大夫：息子の為守(ためもり)。十五歳。  
昔の枕：亡くなった夫、為家の用いた枕。奥書：俊成、定家、為家などの奥書。  
和歌の浦：和歌の家の意。藻塩草：製塩のために用いる海藻。ここでは、詠草・歌書の意。  
横波かくな：邪道に陥るな。

- 問一 二重傍線部ア、イの読み方を平仮名(現代仮名遣い)で答えよ。
- 問二 波線部 a、b について、それぞれ必要な語を補って口語に訳せ。
- 問三 傍線部①を品詞分解し、文法的に説明するための板書例を示せ。
- 問四 A、G の和歌のうち、筆者が詠んだ和歌を全て選び、記号で答えよ。
- 問五 D の和歌にはどのような表現技法が用いられているか。一つ取り上げ、説明せよ。
- 問六 傍線部②について、筆者がこのような様子になったのはどうしてか、「昔の人」が誰かを明らかにして説明せよ。

- 問七 G の和歌はどのような内容を歌っているか、簡潔に説明せよ。
- 問八 二重波線部について、「文屋康秀」と同じく六歌仙に数えられる人物を他に二人挙げよ。また、六歌仙に対する理解を深めるために、どのように ICT を活用する方法が考えられるか、書け。

三 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、一部訓点を省略した所がある。)

『莊子』による

(注) 恵子…宋の人で魏の大臣。

大瓢…「瓢」は夕顔のこと。

実五石…五石入るほどの実になる。

水漿…水や液体。

瓢…水や酒を汲むのに用いるもの。

瓢落…ぼろぼろ欠け落ちる。

呶然…うつろで大きいさま。

不龜手之藥…ひびあかぎれの薬。手に亀裂を作らないようにする薬の意。

泝澣統…綿を水で漂白する。

方…方法。

鬻技百金…技術を百金で売る。

越有難…越の軍が呉に侵入したこと。

蓬之心…おおらかでない、曲がった心。

問一 波線部 a、e の語の読み方を、送り仮名も含め、平仮名(現代仮名遣い)で答えよ。

問二 傍線部①、④を口語に訳せ。

問三 傍線部②はどのようなことを述べているか、簡潔に説明せよ。

問四 傍線部③、⑤に訓点を施せ。

問五 傍線部⑥について、荘子が恵子にこのように言ったのはどうしてか、簡潔に説明せよ。

問六 本教材を用いて、「高等学校学習指導要領」(平成30年3月告示)「古典探究」の2 内容「思考力、判断力、表現力等」A 読むこと(1)ウ「必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。」について指導する際に、どのような言語活動が考えられるか、A 読むこと(2)の言語活動例を踏まえて、書け。

国語解答用紙

二枚中の一

受験番号

氏名

(5年)

問一

①
②
③
④
⑤

問二

⑥
⑦
⑧
⑨
⑩

問三

--

問四

--

問五

--

問六

--

問七

言語活動	指導事項

二

問一

ア
イ

問二

a
b

問三

--

問四

--

問五

--

問六

--

問七

--

問八

S 活 用	人 物

三

問一

a
b
c
d
e

問二

①
④

問三

--

問四

③
吳王使之將。
⑤
憂其瓠落無所容。

問五

--

問六

--

以下はあくまでも解答の一例です。

国語解答用紙

二枚中の一

受験番号

氏名

(5年)

一【100点】

問一	① 全貌	② 潜	③ 逸脱	④ 翻弄	⑤ 体現
	⑥ 膨	⑦ 実践	⑧ 迅速	⑨ 死活	⑩ 投下

【2点×10＝20点】

問二

【例】 hypersubject || 強い主体  
↓ 超越的な立場から世界全体を見下ろそうとする

hyposubject || 弱い主体  
↓ 自己の弱さと不完全さを受け入れて生きていく

既知の意味には収束不能なハイパーオブジェクトの顕在化とともに終焉を迎えるべき主体

既知の意味には収束不能なハイパーオブジェクトが顕在化した後、求められるであろう主体

【16点】

問三

【例】 既知の意味が通じない空間の中で、未知の現実と謙虚に向き合い続ける遊びという行為が、既知の意味に固着することができない時代を生きていく上での有用な示唆となり得ることを分かりやすく伝える効果。

【12点】

問四

イ

【6点】

問五

【例】 物質は元来、根源的な曖昧さとともに揺らぎ続けるものであり、既知の意味に固着しない生き方が現実的、且つ万物に共通する根本的なあり方であるとして、あらゆる可能性を視野に入れる生き方があるべき有り様であるということ。

【10点】

問六

【例】 既知の意味には収束不能なハイパーオブジェクトが出現した現代においては、既存の価値観にとらわれずに対象を受け入れる主体が求められ、且つ植物のように変貌し続ける対象から逃れることなく対峙し、その場にいながらあらゆる可能性を視野に入れることが課題解決につながるから。

【16点】

問七

指導事項	【例】 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握すること。 等
言語活動	【例】 本文についての批評文を書くという言語活動が考えられる。 まずは本文の要旨を把握させ、その上で批評文を書かせたい。その際、一人一台端末の文書作成ソフトを活用させてクラス全体に共有することで、生徒一人一人に新たな気付きを与えることができると考えられる。

【6点＋12点】



国語解答用紙

二枚中の一

受験番号

氏名

(5年)

二【50点】

問一

ア しぐれ

イ てならない

【2点×2＝4点】

問二

a (例)旅に出るのが嫌になったと言って、旅をやめてしまうわけにもいかなかった

b (例)私(為相)は迷ってしまったでしょう、もしあなた(母)が教えてくれなかったならば

【4点×2＝8点】

問三

(例)ラ行四段活用動詞 「立ち去る」の未然形

接続助詞

名詞

係助詞

ハ行四段活用動詞 「払ふ」の未然形

推量の助動詞 「む」の連体形

立ち去ら

※ 動詞の未然形+「ば」

誰

※ 係助詞

「か」(反語)

(訳…くだるうか、いやくない)

む

【6点】

問四

A、B、C、G

【4点】

問五

(例)「形見」と「瀧見」を掛けている(掛詞)。「瀧見」は「浦」の縁語(「和歌の浦」を受ける)。「三代」に「俊成、定家、為家の三代」と「見よ」を掛けている(掛詞)。など。

【6点】

問六

(例)息子である為相の返歌がとても大人びていたことに対して、夫の為家に聞かせたいと思ったが、既にその夫は亡くなってしまうため。

【6点】

問七

(例)母親がいる遙か彼方の空を眺めると詠んだ息子の為守に対して、恋しいならば遠くてもすぐ帰るから、しよんぼりと空を眺めたりするなど歌っている。

【6点】

問八

人物 (例)在原業平

(例)小野小町

※ほかに、僧正遍昭、大伴黒主、喜撰法師

ICT (例)それぞれの歌人の歌を幾つか提示し、歌人特有のテーマや特徴等についての意見を生徒一人一人が画面上で共有できるシート等に書き込みながら、個々の考えを深めていく活動を行うなどの方法。

【人物2点×2＝4点、ICT6点】

三【50点】

問一

a いるる

b つたなし

c つくる

d こえり

e おもんばかりて

【2点×5＝10点】

問二

① (例)あまりに重くて持ち上げることができない。

④ (例)土地を割いて将とした人物に領地を与えた。

【5点×2点＝10点】

問三

(例)ひびあかぎれの薬の作り方を、高く買うと言ってきた客に与えたいということ。

【6点】

問四

③ 呉王使<sub>ム</sub>之<sub>ヲ</sub>将<sub>シ</sub>ヲ

⑤

憂<sub>フル</sub>其<sub>ノ</sub>瓠<sub>ヲ</sub>落<sub>シ</sub>テ無<sub>キ</sub>所<sub>ニ</sub>容<sub>ル</sub>。

【5点×2＝10点】

問五

(例)荘子は、大きな物には大きな物としての使い道があり、その活用方法を考えるべきだと考えているが、恵子は、大きな夕顔の実には使い道がないと考えて、その実を破壊してしまっただから。

【8点】

問六

(例)同じ題材を取り上げた複数の古典の作品や文章を読み比べ、思想や感情などの共通点や相違点について論述したり発表したりする活動。

【6点】